

□ アナリスト週間相場予想

		
江崎		
西		

Pick up News

- [注目スケジュール]
 11/24 米中古住宅販売件数
 25 米消費者信頼感指数
 26 米新築住宅販売件数、米新規失業保険申請件数
 27 米国休場
 28 ユーロ圏消費者物価指数、ユーロ圏雇用統計

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



東京金の日足は10/27安値2104円-11/13安値2176円を繋いだサポートラインと11/5高値2457円-11/19高値2306円を繋ぐレジスタンスラインで構成するトライアングルの最終ポイントに差し掛かっている。通常このようなトライアングルの終点まで動きが収束する事は稀(通常は三角形の右端まで時間軸が到達するまでにどちらかにブレイクする事が多い)なのであまりこのような現象について語られる事は少ないが、単純パターン分析上は全く強弱が無い状態であると言える。よってここから金単独のチャートで売り買い方針は立てづらく、どちらかに動きを見せるまでは様子見、又は他銘柄とのスプレッドを組んで為替リスクのヘッジとして使う程度と考えたい。

一方白金だが、日足チャートは11/13安値2395円をネックラインとするWトップを本日(11/21)前引け時点で完成、2321円で前場を引けており、単純な2278円(10/27)と2857円(11/5)のレンジの下限をノックしに来ている。このまま2278円をブレイクダウンした場合は更なる投げ物とファンドを中心とする売り方の乗せ売りが呼び込まれる公算が高い。貴金属セクターとしては白金の単独売り、強弱感が単品ではないが出遅れているという理由だけで金の単独売り、白金売り一金買いのストラドルを当方推奨する。(11/21前引け現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

白金に関しては、18日にジョンソン・マッセイ社が発表した「プラチナ2008中間報告」が手掛かりとなって、一時的に上昇する場面が見られたが、内容を精査すれば必ずしも強気には受け止められない。2008年の需給が7.4トンの供給不足になるという表面的な数字を捉えただけでは本質は見てこない。報告書が作成されたであろう時期と、現在置かれている環境に変化が出ていれば、当然ながら数値は修正して考える必要がある。世界的な自動車販売台数の落ち込みに表れているように、生産高が今後も落ち込むことは目に見えている。そうした視点で触媒需要を考えれば、日米(特に米国の落ち込みが激しい)は減少、欧州だけは増加するというシナリオには懐疑的にならざるを得ない。確かに欧州はディーゼル車向けの排ガス規制強化がテーマとなっており、生産台数が維持されれば自ずと需要は拡大するのであろう。ただ、生産台数が昨年レベルを維持できるかと言えば疑問が残る。発表がサプライズとならなかったのは、市場参加者も冷静に見ていることの表れでもある。

一方の金だが、こちらは突如として浮上した米シティ・グループの合併協議がどのような結末を迎え、市場がどう反応するかによる。自動車業界の救済が先延ばしにされることになったために、金融市場は悲観的になっているが、新たな問題に対して早急に手が打たれば、短期的な評価はひっくり返る可能性が出てくる。日本は三連休となるためポジションは傾げづらいが、いつまでも売られ続けるというものでもなさそうだ。株価急落で安全資産としての見直し買い、株価反発が原油高を誘えば連動高期待。目先の金相場は下値抵抗を強めるものと考えられる。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。